

第14回フィジカルヘルス・フォーラムのご報告

第15回フィジカルヘルス・フォーラムのご案内

平成24年3月26日

国立大学法人保健管理施設協議会フィジカルヘルス委員会委員長 立身政信
フィジカルヘルス・フォーラム会長 大塚盛男

第14回フィジカルヘルス・フォーラム コーディネーター 東北大学保健管理センター 飛田 渉 教授

第14回フォーラムは、昨年の東日本大震災で被災した地域のうち最も被害の大きかった県である宮城県の東北大学片平キャンパスにおいて開催されました。外見的にはキャンパス内や会場のさくらホールに大きな震災の傷跡は認められず、キャンパスが平穏であることは何よりと感じられました。震災後1年という大変な中での開催でありましたが、飛田教授を中心とした東北大学保健管理センター・環境安全推進センターの関係者の皆様のご尽力と東北地区の保健管理センターの先生方のご協力により大変有意義な時間を過ごすことができました。関係の皆様にご心から御礼を申し上げたいと存じます。

今回のフォーラムでは、1日目に東日本大震災に被災された地域の医療機関から震災当時の対応等について特別講演があり、次いで学生生活と生活習慣病についてのシンポジウムで主に東北大学保健管理センターを中心に取り組まれていることについての講演が行われました。2日目は、キャンパス禁煙をめぐり、これまでにキャンパス内全面禁煙化を実施されてこられた大学からのご報告がありました。また、今回初めてランチョンセミナーが企画され、東日本大震災における在宅医療機器メーカーの対応と東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故における福島県立医科大学の対応についての講演がありました。さらに、午後の特別企画として、東日本大震災において被災した地域の大学の対応についての講演がありました。83人の会員・オブザーバーの方が参加され、2日間とも大変有意義な内容の講演をお伺いすることができ、熱心な討論が行われました。当日の講演メモと記憶をもとに概要を作成いたしました。内容について把握が不十分な点や誤解している点があるかと存じますので、詳細については後日配布されます報告書をご覧くださいませようお願いします。また、ご講演いただきました先生方におかれましては、失礼がありましたらご容赦くださいますようお願い申し上げます。

東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故で被災されました大学及び関係の皆様には心からお見舞い申し上げますとともに、被災されました大学や地域の日も早い復旧・復興及び原発事故の日も早い終息を祈念致しております。

第1日 3月15日(木)

1. 特別講演「東日本大震災被災地域医療機関からの報告」 石巻赤十字病院呼吸器内科部長 矢内 勝先生：東日本大震災により壊滅的な被害を受けた石巻市において唯一大きな被害を免れた医療機関として、震災直後から患者の治療に当たられた様々なご経験について詳細にご報告いただいた。大混乱の中、多数の業務に対応するためには情報や指揮系統の一元化が必要であるが、事前にある程度の体制作りが行われていたとのことであった。また、今回の震災では阪神・淡路大震災とは異なり津波による被害が大部分であったこと、呼吸器疾患患者については、津波による土壌の汚染に伴う粉じん吸入や避難所生活に伴う感染症や避難に伴うADLの低下により、先ず肺炎患者が増加し、次いで慢性閉塞性肺疾患の急性増悪患者が増加し、次いで気管支喘息患者が増加したとのことが興味深かった。今後、長期的にはアスベスト吸入による悪性中皮腫等の疾患の発生の懸念されるため、これらへの取り組みの重要性が強調された。

2. シンポジウムⅠ 「学生生活と生活習慣病」

1) 高血圧「学生の肥満と高血圧」 東北大学腎高血圧内分泌内科 森 建文先生：近年、高血圧、糖

尿病および慢性腎臓病では体内にメチルグリオキサールなどのカルボニル物質が増えることが報告されていることから、学生健康診断時に検査される尿を用いて尿中のメチルグリオキサール等を測定し、肥満や血圧との関係を検討した結果を報告された。被験者の負担のない検査であり研究成果の発展が期待される。

2) 消化管疾患「学生の便通異常を診る」 東北大学保健管理センター 木内喜孝先生：便通異常を訴える学生は多く、その多くは過敏性腸症候群によるものと考えられるが、炎症性腸疾患である潰瘍性大腸炎やクローン病も類似の症状を呈するので注意が必要であり、血便や貧血の症状や所見があった場合には炎症性腸疾患を疑う必要があることを強調された。

3) 糖尿病「肥満学生における臓器障害と糖尿病合併症の共通メカニズムの解明とその対策」 東北大学保健管理センター 小川 晋先生：糖尿病では血管障害の合併が問題となるが、血管障害を起こす例では血液中のメチルグリオキサールが高値であり、この値が高値の例に重点的に血管障害予防治療を行うことにより効率的な血管障害防止治療が実現できる可能性が期待されること、この物質は肥満に伴って産生が亢進することから糖尿病合併症との共通のメカニズムの存在が示唆されることを報告された。

4) 睡眠呼吸障害「学生生活における睡眠障害」 東北大学環境安全推進センター 小川浩正先生：学生生活においてみられる睡眠障害としては、概日リズム睡眠障害、種々の精神疾患、夜間の気管支喘息や睡眠時無呼吸症候群などが原因となっていることがあるので注意が必要であることを強調された。

5) メンタルヘルス「生活習慣と心の健康」 東北大学環境安全推進センター 山崎尚人先生：東北大学保健管理センターにおける精神保健相談来訪学生（学部生、大学院生）の実施状況と概要、学生生活調査結果に基づいた学生生活のストレスに影響する生活習慣要因について、学部生・大学院生別のキャンパスでのセクハラ・アカハラ被害意識調査結果等の報告があった。また、厚労省研究班による「東日本大震災被害者の健康状態に関する調査研究」（宮城班）の調査結果の一部と被災経験からメンタル不調を来した学生の事例について紹介がなされた。

3. 業務連絡 (1) 次期開催校：第 15 回フィジカルヘルス・フォーラムは、岡山大学保健管理センターの小倉俊郎先生にご担当いただくこととなった。第 16 回の担当は関東甲信越地区で、長岡技術科学大学保健管理センターの三宅 仁先生にご担当いただく予定となり、第 17 回は北海道地区が候補となり、開催校は今後相談していくこととなった。(2) フォーラム会則の変更：本フォーラムは当初から国立大学法人保健管理施設協議会フィジカルヘルス委員会の下で活動していることから会則にその旨を明記すること、今後の開催校の選出の方法や会費（参加費）等について議論し会則の一部を変更することが了承された。会費は、会員が 2000 円、オブザーバー参加者 1000 円とすることとなった。(3) メーリングリストについて：phf-net を管理されている三宅 仁先生からメーリングリスト用ソフトのバージョンアップについてご報告があった。(4) 新会員自己紹介：新しく会員になられた滋賀大学保健管理センター 山本祐二先生の自己紹介があった。(5) 退職会員のご挨拶：今年度でご退職になられる京都工芸繊維大学保健管理センター 知念良教先生、東北大学保健管理センター 飛田 渉先生、千葉大学総合安全衛生機構 長尾啓一先生からご挨拶があった。なお、ご参加されていないが、東京工業大学保健管理センター 影山任佐先生、電気通信大学保健管理センター 坂口 明先生、お茶ノ水大学保健管理センター 森田 寛先生、静岡大学保健管理センター 池谷直樹先生、大分大学保健管理センター 寺尾英夫先生がご退職とのことである。

参加者数 83 人

4. 施設見学 東北大学資料館

東北大学の歴史的な歩みや魯迅の東北大学在学中の様子などについての解説があり、長い歴史の東北大学に現存する大変貴重な資料を拝見することができた。

第 2 日 3 月 16 日（金）

5. シンポジウムⅡ「キャンパス禁煙をめぐる」

話題提供「東北大学キャンパス内全面禁煙の歩み」 東北大学環境安全推進センター 黒澤 一先生：平成 22 年 10 月に禁煙宣言を行い、平成 23 年 10 月からキャンパス内全面禁煙を実施した東北大学の実施まで

の歩みを報告された。実施にあたって、禁煙推進WGでロードマップを作成し、建物内禁煙や各事業場での段階的禁煙、各事業場内での推進組織の育成、喫煙者への支援等を実施された。今後、全面禁煙を維持するために喫煙者への対応、大学周辺での喫煙に対する対応、無関心への対応等が重要であると述べられた。

1) 「**大学禁煙化ロードマップと学生禁煙治療**」 奈良女子大学保健管理センター 高橋裕子先生：施設協議会喫煙対策の推進に関する特別委員会委員長として、これまでに長年取り組んできた大学禁煙化を推進するための対策や今後の取り組みのためのロードマップを示された。学内外の関係者の情報の共有化をはかるために知識の提供、禁煙化実施までの猶予期間の設定、大学近隣の協力の重要性を強調された。

2) 「**3年後キャンパス禁煙へむけて～タバコ対策の過去・現在・未来～**」 岡山大学保健管理センター 小倉俊郎先生：当初は禁煙講演会や尿中コチニン測定の実施等による受動喫煙防止対策を行っていたが、平成26年4月から全面禁煙化を実施する予定となった。その経緯や取り組みについて報告され、実施に向け禁煙推進者の育成、情報提供、実施までの猶予期間の設定、トップダウンの決断等が重要であると述べられた。

3) 「**岐阜大学の敷地内全面禁煙の経験—7年を経過して—**」 岐阜大学保健管理センター／大学院連合創薬医療情報研究科 山本眞由美先生：平成16年に大学として禁煙宣言を行い、17年から敷地内全面禁煙を実施されたが、講演会の実施、ニコチンパッチの配布、学長もメンバーの全学的禁煙化WGの活動、FDの実施等、全面禁煙に向けた取り組みや実施後の取り組みについて報告された。

4) 「**岩手大学敷地内禁煙のその後**」 岩手大学保健管理センター 立身政信先生：大学禁煙化を中期目標に導入し、平成20年4月から敷地内禁煙となったが、それまでの取り組みや禁煙化後の状況について報告された。学内の吸い殻拾い、敷地外での喫煙状況の調査、地域との連携等により、敷地外での喫煙状況の改善が報告され、これらの地道な活動の継続の重要性を強調された。

6. ランチョンセミナー（共催：帝人ファーマ株式会社／帝人在宅医療株式会社）

「**東日本大震災における被災地在宅医療機器メーカーの対応**」 帝人在宅医療株式会社仙台市店仙台営業所長 松本忠明様：被災地の24000人以上の在宅酸素療法や在宅人工呼吸患者に対し、医療機器メーカーとして震災直後から全社挙げて支援されてこられたことの詳細な報告があった。患者の安否確認に災害対応支援マップシステムが有用であったことや患者・医療機関との情報交換が重要であったことが強調された。

「**東日本大震災・福島原発事故における大学の対応**」 福島県立医大呼吸器内科教授 棟方 充先生：福島県立医大地域医療担当理事としての立場から、大学として東日本大震災および福島原発事故の発生直後からの緊急時災害医療、避難住民や各地域への医療支援、被ばく者スクリーニングや被ばく医療等について実施されてこられたことや今後の復興に対する大学の取り組み等について詳細にご講演をいただいた。大学の教職員や関係者が団結して困難な使命に対しベストを尽くしてこられたことに感銘を受けたが、この間全学ミーティング等を通じて全教職員が情報を共有し指揮系統を一本化できたことが最も重要であったことをお伺いし、今後の組織運営に対し非常に大切なことを学ばせて頂いた。

7. 特別企画 「東日本大震災における各大学の対応」

1) 「**被災地近隣大学（北関東）からの報告**」 茨城大学保健管理センター 宮川八平先生：大学の被災状況の報告があり、人的被害はなかったが建物や実験器具・資料等の被害は約30億円であったことや学生の安否確認に約1ヵ月を要したとのことである。また、震災直後は学生会館に学生、教職員、受験生、付近の住民等、約500人が避難し、保健管理センターのスタッフが医療班として28人の利用者に対応されたとのことである。応急処置として、洗浄用の水および大型懐中電灯の備蓄の重要性を強調された。

2) 「**原発事故による放射能災害の現状**」 福島大学保健管理センター 渡辺 厚先生：福島第一原発の事故により飛散した放射性物質の福島市や福島大学における汚染状況について報告があり、事故後1年経った現在でも学内や市内の建物内以外の線量が比較的高いことや除染が進んでいないためストレスフルな生活を余儀なくされていることが強調された。

3) 「**岩手大学東日本大震災復興本部と保健管理センターの係わり**」 岩手大学保健管理センター 立身政信先生：震災に対する保健管理センターや大学の対応の報告があった。震災直後は保健管理センターを昼夜開放しセンターの医師や保健師が宿泊対応したこと、その後大学の復興対策本部の健康管理部門として学

生や地域支援を担当し、メンタルヘルス調査でPTSDが約5%、うつが約2.5%の学生にみられたこと、現在は復興推進本部の生活支援部門の心のケア班として心理カウンセラーが活躍していること等が報告された。

4)「震災後の学生への心理的支援～学生相談と全学学生対象調査を通じて～」 東北大学学生相談所 池田忠義先生：震災に伴う学生への心理的支援について報告があった。一次支援として、震災直後は震災前に来談していた学生への連絡、その後は震災関連の相談、二次・三次支援として、学生・教職員向けのリーフレット配付を実施された。相談内容は、心身の不調や進路に関するものが多かったとのことである。また、学生に対し被災状況や心理面等について記名式調査を行い、PTSDが約12%にみられ、被災者や留学生に多い傾向があり、相談希望者やPTSDハイリスク群に面談やメール等での情報提供を行ったとのことである。

5)「教育・研究機関における安全管理～東日本大震災を教訓に～」 東北大学環境安全推進センター 色川俊也先生：大学の被災状況の報告があり、建物や実験器具・資料等の被害は約700億円であったとのことである。通路の確保、高層階における物品の固定や配置、化学物質の管理、高圧ガスボンベの固定、実験機器の緊急時の対処法の確認等について、震災に備えて職場巡視で注意すべき点の報告があった。また、安否確認や指揮系統等の問題が指摘され、防災訓練や災害の経験・教訓を引き継ぐシステム作りの重要性が強調された。

第15回フィジカルヘルス・フォーラムのご案内
コーディネーター 岡山大学保健管理センター 小倉俊郎教授
日時 平成25年3月20日(水)、21日(木)
場所 岡山大学創立五十周年記念館
多数のご出席を宜しくお願い致します。